

巻 頭 言

本研究所は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESD による地域創生の評価と ESD 地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）を 2015 年度から実施しています。本研究プロジェクトのテーマのひとつに「ESD 地域創生拠点の形成」を掲げていますが、その中で重要な位置を占めるのが、日本国内の自治体との連携です。

本研究プロジェクトの母体である立教大学 ESD 研究所は、2016 年度に 3 か所の自治体（長崎県対馬市、北海道羅臼町、静岡県西伊豆町）との間に ESD 研究連携に関する覚書を締結し、2017 年度には新たに長野県飯田市とも覚書を締結し、計 4 つの自治体と ESD を通じた地域創生の可能性について実証研究を行ってきました。幸いにも各自治体の方々のご理解とご協力を得て、学生によるアクションリサーチや自治体間の合同研究会といった取り組みを実施してきました。そうした活動の一部は、本報告書にレポートや論考等を掲載しております。それらは今後も継続し、また検証を重ねていくことで、さまざまな効果が得られるものと期待しております。各自治体で行うアクションリサーチの比較検討、自治体間の交流など、私どもと一つ一つの自治体がつながるだけではなく、自治体同士のつながりも含めた連携をめざしていきたいと考えています。

本報告書は、2018 年度に実施した、各覚書締結自治体及び豊島区と立教大学 ESD 研究所との連携による取り組みの一部をまとめたものです。ESD による地域創生の可能性は、どこに見いだせるのか、今後も多様な実践・研究活動を展開していく所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、各自治体の皆様をはじめ、本研究プロジェクトの遂行に際し、ひとかたならぬご厚情を賜った皆様に厚く御礼申し上げます。

2019 年 3 月

研究代表者 阿部 治